

尹 相軫 (ユン サンジン)

韓国出身

日本体育大学 体育科学研究科 博士課程

1. 来日したことでプラスとなったこと

あつという間の3年でした。そうすると、最初に来日した頃が思い出されます。日本に来て1週間後に起きた2011年の大地震で、日本生活を始める前に韓国へ帰国する、という選択肢が頭の中に刻まれた事件がありました。その当時は、海外や母国のからの友達も、家族からも帰国した方が良いと言われていましたが、大地震さえも自分の新たな生活への好奇心に勝つことは出来ませんでした。約1年間悩んで決めた来日なので、始める前に諦めることが凄く嫌で、自分からも意地を張ったのですが、今の時点から考えると何と素晴らしい選択だったかと思えます。日本に来て、自分が得られたものはたくさんあります。まず、日本語です。今はもう日本人が話す言葉以上に、言葉の裏の感情もだいたい把握出来る段階で、まだ日本人並みの表現力まではたどり着いていませんが、外国人としてバイリンガルになれたことは自分の誇りです。

2つ目はマインドの変化です。留学前はあまりにも少ない自分の経験値では、世の中が動いている姿が頭に入ってこなかったのですが、1つの物や食べ物が出来上がるまで、どんなにたくさん的人力と時間、お金が要り、どうやって動いているかを自分の目で確認出来ました。朝早く起きて散歩に行くとカラスがゴミ袋をあさっている姿から、野菜を調達しに忙しく回っているトラック、朝早くから働く店員たち、夜の仕事から帰る人々など、自分の母国であつたら見ようもしないはずのことからいろんな考えが生まれ、自分を変えました。また、日本人を含め、いろんな国の人々と話して考えを共

有した留学生ならでのコミュニティも凄い経験でした。文化や人類が違ってても基本的な考え方や生き方は人間として同じであることから、どんな国の人でも、偏見を持たずに、その人の人柄から判断するように自分を変えました。

3つ目は経験です。韓国の親の頑張りの中から頂く金銭的な支援などを離れ、心を寄せる所のない外国でよそ者としてお金に困って悩むこと、バイトをしてお金を稼ぎながら大学の友達との絆を続けるプロセスを毎日経験し、自分がどういう人なのか、短所と長所は何かなどの自己判断から自分の性格や言葉遣いを変えていく作業は大変だったのですが、今はもう自分という人間を形成するに欠かせない部分となりました。

2. 奨学生期間中にできたこと・将来計画

奨学生期間中にできたことは絆です。日本に来て約1ヶ月間は友達がおらず、日本語の練習も日本のアニメや映画を見ながら行いましたが、学校や仕事、もしくは町で偶然会った人々と友達となり、すれ違いの縁もありましたが、一生お互いを支え合う親友も日本人で2人、ドイツ人で1人、3人も出来たことは素晴らしいことだと思います。人として親友は3人いたら多い方で、1人もいない方もたくさん居ると聞きました。また、日本体育大学で出会った指導教員の先生との縁も一生大事にしたいと思います。何も分からない自分を1人の学者として育ててくださったことは、ずっと心の中で感謝しています。最後に坂口財団との絆も大事です。修士課程の2年目に縁が結ばれてから、日

本で生活が出来るようにいろんな部分から後援者として、支持者として、そして友として私にくださった配慮と応援は、日本での5年間の生活を送られた原動力でした。また、歌舞伎鑑賞、東洋文庫見学、秋季研修・交流会、日赤チャリティ・コンサートなど、留学生のために色々な工夫をし、計画を立て、準備してくださったおかげで、日本という国をさらに理解できる機会をもらえて良かったと思います。2020年はコロナですべてがキャンセルになって残念な気持ちでしたが、修士課程の1年間と2019年の1年間でほぼすべての行事に参加することが出来て、自分は恵まれているなと感じました。帰国しても、この絆を大切に続けて行きたいと考えています。

日本に来た時の自分の夢は大学教授でした。修士学位を取って、博士学位さえ取れば、韓国もしくは日本で教授になれると思いました。今もその夢は進行中ですが、去年の学位申請の時、海外論文の投稿完了が間に合わず、学位をもらうことが出来なかったため、今年にもう一度挑戦することになりました。結果を知り、最初は凄くがっかりし、何もかも諦めたい気持ちになりましたが、よく考えてみると3年で博士学位を取るケースは少なく、しかも外国人として海外の学校で博士号を3年でとることはなかなかないことを気づきました。すでに学位論文と海外への投稿論文は完成したこともすごいことなので、自分を褒めるべきであると思うことにしました。海外学術誌から投稿完了の知らせさえあれば、学位が取れる段階まで来られるので、引き続き頑張りたいと思います。もちろん、学位を取ってからの就活も無難な道ではありません。様々な研究者たちとの競争が待っていて、これからは自分の論文をどんどん増やして、世界に自分の成果を公表することと、一人の学生を、研究者を育てる役割にもなれる必要があります。決して簡単なことではありませんが、諦めずに、必ず坂口財団の皆さんに良いニ

ュースが伝えられるよう、ずっと頑張りたいと思います。

コロナ禍で世界中が悲鳴をあげていますが、その中、私には良いことがありました。日本留学中、コロナのことでしばらく韓国へ戻るようになったことが、結婚への道になるとは思いませんでした。元々、結婚は更に先のことだと思っていましたが、コロナ禍で自分の考えが変わり、前から縁があった友達と結婚の話までできたことは、偶然ではないと思います。

世の中に偶然なことはないと思います。人のすれ違いも一つの縁だといわれていますが、私がオーストリアで日本へ留学することをきめて日本語の勉強を始めたことも、たくさんの大学の中で日本体育大学と縁が結ばれたこと、その中で、また坂口財団と大切な絆ができたこと、留学の最後の年に結婚したこと、すべて自分が一つ一つ選び、もしくは有難く選ばれた結果だと思います。日本での留学生活がこれで終わることは残念ですが、この縁を大事にしながら自分の居場所で頑張ると、また思いもしない形・時に、会えるでしょう。

2021年2月